

### 蛇娘の話

昔、末川の向筋という集落に一人のたいへん美しい娘がおった。

ある夜のこと、この娘が夜遊びに出かけたところ、一匹の蛇に見初められてしまい、それからというもの蛇は毎晩若い男に化けて、娘のところへ通うようになり、いつの間にか、娘は身ごもってしまった。

男が通ってくることや、娘が身ごもってしまったことに気づいた両親は、相手の男がどこの誰かわからないので、ある夜

### 末川あし山の駒のツメ跡

末川小野原の奥に「あし山」とよばれる山がある。

ここにも、木曾義仲の駒のツメ跡が残る石があり、この馬が茸毛（白に黒や茶色の混じった毛並み）の馬だったから村の人はその山を「あし山」と呼ぶようになったそう。この岩は大きな岩で、岩の上には、いかにもこの岩の上を馬が上っていったかの如く、ヒズメの跡のようなものが三つと膝の跡のようなもの一つ残っている。

男のぞつりに糸巻きの糸をしはっておいた。

翌朝、両親がその糸をたどって行くのと、驚いたことにその糸は近くの池の中へ入っていった。

なんと、若い男はその池の主の大蛇であった。

両親はそっと耳をすませて聞いていると、池の中から話し声が聞こえてきた。蛇たちは、

「女が身ごもったら、菖蒲酒を飲ませると流産するぞ」

### 開田村の民話

「開田の昔話」より

### 十人塚の話

半太夫屋敷の近くの道端に、ただ石を積んだだけの塚がある。

昔、よそから来た人夫たちが小野原の奥で山仕事をしていたそう。ある日、三日三晩も大雨が降り続き、月夜沢に蛇ぬけがあつて、ここにあった山小屋を押しつぶし、流してしまった。逃げ遅れて亡くなった十人の人夫を気の毒に思った村人たちが、石を積んで塚を作り、霊を祀ったのがこの十人塚だそう。

と、話しておった。

両親は早速帰ってきて、娘に菖蒲酒を飲ませたところ、流産して蛇の子を産まずに助かったそう。

### 義仲の駒かけ岩

西野から岐阜県日和田へ通ずる旧飛騨街道、長峰峠の頂上つぎの少し南方に、『義仲の駒かけ岩』という岩石がある。

この岩には、馬のヒツメのよな形をした窪みが二つと、平らな岩の上には一見ヨロイのあとのような紋様がある。これは、義仲が駒を休めて、自分も腰を下ろして休んだところといわれ、駒のヒツメのあとと義仲のヨロイのあとが残ったものと伝えられている。



### 編集後記

◇町村合併など他人事のように思っていました。いよいよ現実のものとなってきました。役場庁舎玄関口にある「木曾町誕生まで〇〇日」というボードの日数が減っていくたびに、なんとなく寂しさを禁じえません。◇さて、今からおよそ250年も前に先人の計り知れない努力によって田を切り開いたのが、開田村という名の由来です。当時の偉業を称える稗田の碑が末川、把ノ沢、西野とそれぞれの地区に建てられていて、先覚者の苦勞をしのぶことができます。が、当時、これほどの高い技術力を持った先人が村内にいたということは特筆すべきことだと

略

思います。この開拓者精神は、いつもでも大切にしていきたいものです。

◇11月1日、4町村による木曾町が誕生します。それぞれに貴重な歴史や伝統、地域性があり、これから乗り越えなければならぬ課題も多いかと思えますが、お互いが新町の大局的立場に立つて判断し、行動していくことが重要だと考えています。今を生きる自分たちが、そして後世の人々が「合併してよかった」と、自信を持って言えるような活力あふれる魅力的な町づくりに向けて、みんなで努力しようではありませんか。「開田村」の心はいつまでも忘れません。ありがとう！「開田村」

(ふ)